

日英、核融合実現へ協力 英国の遠隔口術技術活用

2025/6/17付 | 日本経済新聞 朝刊

日英両政府は次世代エネルギーとして期待される核融合発電の技術開発で協力する覚書を交わす。核融合炉の保守作業に必要な英国の遠隔操作ロボットの技術と、日本のものづくり技術などを組み合わせ、2030年代の発電の実証につなげる。

文部科学省の増子宏文科審議官と英国で気候変動対策を担うマッカーシー閣外相が19日にロンドンで会談して署名する。研究開発や施設の相互利用、安全規制の枠組み、人材育成で協力する。業界団体間でも覚書をまとめる調整をしている。

日本は4日に改定した「フュージョンエネルギー・イノベーション戦略」に「世界に先駆けた30年代の発電実証」を掲げた。改定後の最初の協力相手に英国を選び、開発を急ぐ。同戦略の改定を主導した城内実科学技術相が4月の訪英時に連携強化を協議していた。

日本がとりわけ期待するのは英国が強みをもつ炉の管理ノウハウだ。

英国は核融合の研究施設の保守に遠隔操作ロボットを使ってきた。この分野で世界の最先端を走る。東京電力福島第1原発の廃炉に使う遠隔ロボットにも協力している。

(ロンドン=江渕智弘、今尾龍仁、蓑輪星使)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.